

災害時ケアプランコーディネーター養成研修（作成日2019/3/15）

基礎講座

第一講（80分）

- ・社会モデルとして障害を考える
- ・災害と防災リテラシーの基礎知識を身につける

	受講生の活動	指導者の活動	準備物	参考テキスト
基本知識の獲得 (50)	障害を医学モデルではなく、社会モデルで認識する	障害を社会モデルとしてしっかり説明する ・ 社会が生んだ障害 が障害の原因である		立木茂雄『災害と復興の社会学』3章
		①災害は自然現象ではなく、社会現象であることを伝える ・ 災害因である自然現象による影響と社会のぜい弱性の重なった部分が災害である ・ 災害D=f（ハザードH，ぜい弱性V） で決まる 例）災害名：東日本大震災 災害因名：東北地方太平洋沖地震 「地面の揺れや大雨が人の命を奪うのではなく、そういった自然現象に耐えられないもうい住居や、危険な場所に住んでいることが人の命を奪う」		立木茂雄『災害と復興の社会学』1章
	社会現象としての災害を小さくするための重要な事項について理解する	②災害を小さくするには、災害因（自然現象）の影響力を小さくする（防災）のと同時に、社会のぜい弱性を小さくする（減災）の両方が必要 防災＝構造物によってハザードの影響を抑えることで被害を抑止する 減災＝構造物を使わない被害抑止や事前のそなえ、応急対応・復旧・復興による社会のぜい弱性の縮小		立木茂雄『災害と復興の社会学』2章
		③個人のぜい弱性が高い人たちが「災害時要配慮者」 ・ 個人のぜい弱性V=f（人P，環境E） によって決まる 例）車イスの人とメガネをかけた人のぜい弱性の大きさの差を訪ねた後、家族と暮らしている車イスの人と一人暮らしのメガネをかけた人のぜい弱性の大きさの差を考える ・ 災害D=f（ハザードH，f（人P，環境E））を理解する		立木茂雄『災害と復興の社会学』2章
	防災リテラシーについて知る 防災リテラシーを高める方法と、防災リテラシーによる効果を知る	防災リテラシーについて説明する 防災リテラシーは 「 脅威の理解 」：どんな災害が起こりうるのか、その際自分がどんな被害を受け、どれだけ日常生活が影響を受けるのか理解する 「 必要なそなえの自覚 」：受けるであろう被害・生活への影響に対して、どんなそなえがどれだけ必要か自覚する 「 とっさの行動への自信 」：いざという時に命を守る行動が取れるよう、避難訓練を繰り返し避難行動をパッケージ化する の3つの要素で成り立っている 「防災リテラシーがあれば、自分がさらされているリスクに対して必要なだけそなえられるようになり、いざという時に命を守るための適切な行動をとることができる」		災害時の適切な避難を促す「防災リテラシー」、月刊公明、2016年12月号、50-55.
具体的な手法の理解 (25)	平時のケアプラン作成に関わる福祉専門職が災害時のケアプランを作成することの必要性を理解する	①これまでの災害時要配慮者の取り組みがうまく進まなかった根本原因は、平時の生活を考えている福祉部局と、災害時の対応を考える危機管理部局が断絶しているからであることを伝える ・ 東日本大震災で宮城県で障害者死亡率が高かった原因が、災害時の対応までを含んでいなかった福祉だけのノーマライゼーションの推進によることを根拠として伝える ②平時のケアプランを作成しているケアマネジャーや相談支援専門員が、もっとも要配慮者のそばによりそい、必要な合理的配慮を本人とともに伝えることができる存在であることを伝える		誰ひとり取り残されない防災をめざして,国民生活（Web版）2018年9月号, No. 74
	災害時ケアプランを作成するための具体的な手順を知る	①平時のケアプランの延長線上に災害時ケアプランがある ②災害時ケアプラン作成のプロセスを理解しているか確認する（e-learning視聴済み） 1）起こりうる災害とそれによる日常生活への影響を伝えたくうえで（脅威を正しく理解する）、当事者の身体、生活、日常生活で使用している資源についてアセスメントし、その資源が災害時に使えるのか、足りるのかを確認し、足りない場合の解決策を検討する（安心防災帳を使用） 2）当事者が生活する地域に出向き、実際の避難経路などを確認する 3）災害時一緒に避難するであろう地域住民（特に自治会役員と近隣者）と調整会議を開き、避難行動については当事者の持つ資源といざというときに必要になる資源を、エコマップを描きながら共有して避難行動のプラン案を作成する。避難生活については実際に避難生活を送る場所に集まり、国際生活機能分類に基づいた災害時の困りごとチェックシートから特に困ることをあげ、住民含めた全員で解決策を検討する。 4）平時のケアプランを記入している様式を拡張し、緊急時の特記事項として調整会議で話し合った結果を災害時ケアプランとして記入する 5）当事者もしくはその代理人とともに、想定される災害を理解したこと、自身でそなえるべきこと、必要であれば声を上げて支援を求めることを記入し、命を守るために必要な情報共有に同意した署名を記入した確認書を作成する。これにより平時のケアプランと同じく、当事者と支援者の間に水平の関係が築ける。 6）立てたプラン通りに避難訓練や避難所開設訓練を、地域住民が参加するインクルーシブな防災訓練の形で行い、検証し、必要であれば改善する。 ③プランの完成そのものがゴールではなく、地域住民も巻き込んで行われる一連のプロセスが継続的に実施されるしくみを地域に根付かせることが大切。	ワークシート等でe-learningの内容を確認する	誰ひとり取り残されない防災をめざして,国民生活（Web版）2018年9月号, No. 74
まとめ	福祉専門職にだけ責務が増えるのではなく、様々な関係者と連携しながら当事者をエンパワメントすることが大切であると知る	・ 当事者、その家族、地域住民たちによるインクルーシブな訓練の必要性を伝える ・ 当事者やその家族が、地域住民と信頼関係を結べるよう、当事者と家族を支える		

第二講（80分）
・災害時ケアプランのための当事者アセスメントをする

	受講生の活動	指導者の活動		
準備		災害時の影響についての資料を配付		
	災害時の影響について正しく知る（5分）	・資料に基づき簡潔に（10分程度）説明 起こる災害の規模や被害だけでなく、日常生活がどのように影響を受けるのか、支援者と当事者が想像しやすいように伝える ・災害D=f（ハザードH，f（人P，環境E））を思い出させる	・地域のハザードマップ ・避難所・避難場所マップ ・あなたたまのまちの直下型地震によるライフライン被害シミュレーション結果	
		安心防災帳および予備の3と4の台紙を配布		
	・キットに従い聞き取りをする（60分）	1グループに一人の当事者を配置し、キットの内容が1，2がADL，3，4がICFの活動と参加，環境要因であることを説明し、キットに従って聞き取りをするよう指示 時間の目安： ①1（身体）と2（生活）のアセスメント：30分 ②3（現在のそなえ）のシール貼り：15分 ※その際、人とのつながりの部分はサービスを受けていたり挨拶する中であれば資源としてカウントし、台紙に貼るように指示する（3で資源として認識できていないと4で必要なそなえを考える際にあがってこない） ③災害による影響をもとに、現在のそなえが使えるのか、足りるのか考えて、○△×を付ける（台紙とシールの両方に○△×を書く）：3分 ④×および△のシールを4の台紙に移す（困った顔の欄に貼る）：1分 ⑤3に貼られなかったシールも確認し、改めて災害にそなえて準備すべき資源がないか確認する：1分 ⑥4（必要なそなえ）に貼られたシールの課題解決方法（資源をどう獲得するか）を検討する：10分	・自分で作る安心防災帳 ・安心防災帳使い方資料	
	資料をもらう。	災害時ケアプラン素案用様式（ケアプラン版とサービス等利用計画版を配布する）		
	・災害時に不足する事案について考え、災害時ケアプランの原案を作る（10分）	平時のケアプランやサービス等利用計画の一部を改変した様式に、緊急時の困りごとや必要な備えなどを記入して、災害時ケアプランの素案を作成するよう指示	災害時ケアプラン素案用様式	
まとめ	自分が担当する地域の要支援者に思いを巡らせ、災害時ケアプランを事前にすることの重要性を認識する（5分）	要配慮者一人一人について、本講義で学んだように災害時のケアプランが必要であることを確認する		

応用講座
第三講（120分）
・災害時ケアプラン調整会議を模擬的に体感する

	受講生の活動	指導者の活動	備考	
導入	・災害時の当事者アセスメントを思い出し、災害時のケアプラン調整会議にのぞめるようにする。（10分）	第一・二講のふりかえりを行う。 当事者アセスメントの結果、災害時ケアプランの素案を思い出させる。 その上で、平時関わり合いのない住民に、当事者の代弁者として平時の状況とプランの素案を伝えて、話し合いの場が作れるようにする。		
演習	①避難行動のケアプランを作成する。（30分）	当事者のアセスメントについて思い出し、エコマップを作成しながら議論をまとめるよう指示。	・模造紙 ・赤青黒のブロック	Hartman, A. (1978), Diagrammatic assessment of family relationships, Social Casework, 59(8), 465-476
	平時の資源を青、災害時に必要となる資源を赤で描く	地域住民にとっては避難訓練時の段取りの形でまとめる		
	②避難先での避難生活のケアプランを作成する（30分）	①当事者に困りごとチェックシートから特に困ること3つを選択してもらう ②選択された困りごと3つの解決策を検討してもらう （出た意見は1つごとに1枚の付箋に記入し、全ての意見を付箋にして貼った上で、グループで検討した結果を解決策として整理する）	・AO版困りごとチェックシート ・正方形の黄色付箋 ・ラッションペン	
	出てきた意見は付箋で整理する	地域とその施設が持つ資源を上手く活用し、より多くの避難者が受け入れられる合理的配慮の行き届いた避難所をめざす		
個人ワーク	演習の結果を受けて、第二講で作成した素案の修正と確認書の作成を行う（15分）	2つの様式を用いて災害時ケアプランの作成を行うことで、当事者自身の自助を高めることと、このプランの内容と実行についての自己決定を促し、当事者と支援者の水平な関係性が保たれることを伝える	・ケアプラン改造様式 ・サービス等利用計画改造様式 ・確認書様式	
全体発表	各グループの代表者が、模造紙やチェックシート、様式などを用いて、作成したプランについて報告する（30分）	各グループの考えや経験したことを、受講者全体で共有化する		
まとめ	自分の地域に戻り、災害時ケアプランの作成に取りかかる気持ちになる。（5分）	各自が地域に戻り、実践するように言う。		